

令和6年11月の解説（週間天気予報）

【11月の天候状況】

上旬は、北日本では天気は数日の周期で変わったが、期間後半には一時的に西高東低の気圧配置になったため、日本海側では曇りや雨または雪の日が多く、太平洋側では晴れの日が多かった。北日本日本海側の旬降水量は多く旬間日照時間は少なかった一方、北日本太平洋側の旬間日照時間は多かった。北海道では平地でも積雪となった所があった。東・西日本では天気は数日の周期で変わったが、期間はじめには、台風第21号から変わった低気圧と前線の影響を受けてこの時期としては記録的な大雨となった所もあった。このため、東・西日本太平洋側と西日本日本海側では、旬降水量がかなり多かった。西日本日本海側では旬降水量平年比が536%となり、1946年の統計開始以降、11月上旬として1位の多雨となった。寒気の影響が弱かった東日本日本海側では旬間日照期間が多かった。台風第21号と第22号や湿った空気の影響を受けた沖縄・奄美では、旬降水量が多く旬間日照時間が少なかった。期間末には高気圧の南縁を回る湿った空気などの影響を受けて記録的な大雨となった所もあった。偏西風が平年より北偏して流れやすく寒気の影響が弱かったため、旬平均気温は沖縄・奄美でかなり高く、東・西日本で高かった。沖縄・奄美では、旬平均気温平年差が+1.9℃となり1946年の統計開始以降、11月上旬として1位タイの高温となった。期間後半に寒気の影響を受けた北日本では平年並となった。

中旬は、北・東・西日本では天気は数日の周期で変わったが、北日本と東・西日本日本海側は高気圧に覆われやすかった一方、東日本太平洋側は高気圧の南側に位置し、気圧の谷の影響を受けやすかった。このため、旬降水量は東・西日本日本海側でかなり少なく、北日本日本海側と北・西日本太平洋側で少なかった。また、旬間日照時間は北日本日本海側と北日本太平洋側でかなり多く、東・西日本日本海側で多かった一方、東日本太平洋側では少なかった。期間末には、低気圧通過後に一時的に西高東低の気圧配置となって寒気が流入し、北日本と東日本日本海側では初雪となった所もあった。沖縄・奄美は、台風第25号や湿った空気の影響を受けやすかったため、旬降水量がかなり多く、旬間日照時間が少なかった。寒気の南下が弱く、全国的に平年に比べ暖かい空気に覆われた。加えて、沖縄・奄美には暖かく湿った空気が流れ込みやすかった。このため、旬平均気温は、東・西日本と沖縄・奄美でかなり高く、期間末に寒気の影響を受けた北日本でも高かった。特に、沖縄・奄美では、旬平均気温平年差が+2.6℃となり1946年の統計開始以降、11月中旬として1位の高温となった。

下旬は、天気は数日の周期で変わり、期間のはじめと終わりは東日本日本海側を中心に日本海を進む低気圧や前線の影響を受けた。期間の中頃は北日本を中心に高気圧に覆われやすかったが、本州南岸から三陸沖を進む低気圧の影響を受けた日もあった。沖縄・奄美は大陸から張り出す高気圧に覆われることが多かった。このため、旬降水量は東日本日本海側でかなり多く、北・西日本日本海側と北・東・西日本太平洋側で多かった一方、沖縄・奄美では少なかった。旬間日照時間は北日本日本海側と北・東日本太平洋側で多かった一方、東日本日本海側で少なかった。期間の後半は沖縄・奄美を中心に寒気の影響を受けた一方、北日本を中心に南から暖かい空気が流れ込んだ。このため、旬平均気温は北日本で高かった一方、沖縄・奄美で低かった。

【11月の検証結果】

「降水の有無」の全国平均の適中率(3～7日目平均)は、例年値(注)よりも6ポイント高い80%となった。地方別の適中率では、近畿、沖縄地方以外の各地域で例年値を上回った。最高気温の予報誤差(2～7日目平均)は、全国平均で例年値よりも0.5℃小さい1.6℃で、すべての地方で例年値よりも小さくなった。また、最低気温の予報誤差(2～7日目平均)は、全国平均で例年値よりも0.2℃小さい1.8℃で、九州南部、沖縄地方を除く各地方で例年値よりも小さくなった。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【1月の週間天気予報の利用にあたって】

1月から2月にかけては1年で最も気温が低くなる時期です。冬型の気圧配置が続き日本海側では雪の日が多く、強い寒気や低気圧の動向によっては大雪となることもあります。また、冬型の気圧配置が緩んで晴れる放射冷却によって気温がさらに下がることもあり、低温による凍結などの被害が起こることがあります。週間天気予報で気温の低い予想が続く場合は、低温に対する早めの対策を取るほか、最新の気象情報にも留意してください。